

1 高良神社本殿 1棟 [有形文化財（建造物）]

[所在地] 天理市櫛本町 1496 番地
 [所有者] 高良神社
 [員数] 本殿 1棟 附 修理銘札 1枚
 [時代] 室町時代後期
 [概要]

高良神社は天理市櫛本町の中北部に位置する。櫛本町内は、市場・高品・四之坪・南小路・瓦釜・膳夫の六惣に分かれ、各惣の神社の管理は筆頭の和爾下神社（櫛本町）および六惣で行われ、瓦釜に所在する当神社も同様に管理されてきた。

本殿は一間社春日造で、屋根は檜皮葺形の銅板葺である。軸部、組物および軒廻りは当初形式をよく残し、身舎背面の破風や継破風の形状から当初は厚板葺であったとみられる。本殿の建立年代を直接示す史料は確認されていないが、虹梁形頭貫の木鼻の形状、墓股の形状および内部彫刻が左右非対称であること、庇頭貫は袖切のみを付けること、垂木の上下面に反りがあり飛檐垂木に扱きがつくことなどは中世後半の形式を示している。

これらの特徴や類例から高良神社本殿は室町後期の建立と考えられる。一部に後世の改変があるものの保存状態は良好であり、また、類例の少ない身舎を吹寄垂木とする点や当初は厚板葺である点も特徴的で、県内に残る中世の春日造社殿として極めて重要である。



正側面全景 北西より



庇組物詳細



背面側の軒廻り・組物詳細

※春日造：特に奈良県に多く見られる神社本殿形式の一つで、春日大社本殿がこの典型

※身舎：主要な柱に囲まれた建物の中心部分

※木鼻：頭貫の柱から突き出た部分

※飛檐垂木：軒が二軒の場合に、軒先側の垂木

※頭貫：柱と柱を頂部でつなぐ横木

※庇：正面階段を覆い、身舎前方に張り出した部分

※吹寄垂木：2本ずつ1箇所に寄せて垂木を配する形式